



静岡音楽館 Aoi × 静岡科学館 る・く・る × 静岡市美術館 共同事業

参加費
無料
ドリンク希望者は
会場で購入できます

ミュージアム

カフェ

トーク

Museum Café Talk

静岡音楽館Aoi、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館——JR静岡駅前の3つの館が、音楽・科学・美術の境界を超えた総合的な文化空間の創造を目指して「ミュージアムカフェ トーク」を行います。

スペシャリストをゲストに迎え、各館のスタッフがコーディネーターとなり、ゲストと市民が対話し交流する場を作ります。

静岡市美術館の交流ゾーンを会場に、ゆったりとした雰囲気の中で静岡の作り出す「文化」に触れてみませんか。



会場 静岡市美術館 多目的室
アクセス JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。

第1回

- ◆日時：7月3日(日) 15:00～16:30
- ◆テーマ：「メディアアート：技術を生かして芸術を作り出す」
- ◆ゲスト：的場ひろし(静岡文化芸術大学 教授)
- ◆コーディネーター：高橋みどり
(静岡科学館る・く・る エducator)
- ◆定員：30名
- ◆お問合せ：静岡科学館る・く・る
Tel.054-284-6960



静岡科学館展示「ダンス・ダンス」



第2回

- ◆日時：7月31日(日) 15:00～16:30
- ◆テーマ：「国芳の魅力に迫る!」
- ◆ゲスト：岩切友里子
(浮世絵研究家、
没後150年歌川国芳展監修者)
- ◆コーディネーター：吉田恵理
(静岡市美術館 学芸員)
- ◆定員：70名
- ◆お問合せ：静岡市美術館
Tel.054-273-1515



第3回

- ◆日時：8月28日(日) 15:00～16:30
- ◆テーマ：「新しい音楽の創造とエレクトロニクス」
- ◆ゲスト：野平一郎
(作曲家、ピアニスト、
静岡音楽館Aoi 芸術監督)
- ◆コーディネーター：小林旬
(静岡音楽館Aoi 学芸員)
- ◆定員：30名
- ◆お問合せ：静岡音楽館Aoi
Tel.054-251-2200



写真：相田憲克

〔申込〕 当日直接会場へ(14:30から受付 先着順)

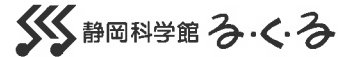
〔会場〕 静岡市美術館 多目的室(静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F Tel.054-273-1515)

〔主催〕 静岡音楽館Aoi×静岡科学館る・く・る×静岡市美術館 指定管理者 財団法人静岡市文化振興財団



7月3日(日) 15:00～16:30

メディアアート: 技術を生かして芸術を作り出す



概要

メディアアートには、ビデオやコンピューター、マスメディアなどのニューメディアを使い、人間のさまざまな知覚を利用して鑑賞者自身が作品に働きかけることにより、作品とのコミュニケーションを楽しむことができるという特徴があります。ここでは、メディアアートが持つ不思議さや面白さを静岡科学館の展示物やメディアアート作品とともに紹介し、メディアアート制作の現場や社会とのかかわりについてのお話をカフェ形式でゆったりと聞いていきます。

プロフィール

現場ひろし

専門領域: メディアアート、インタラクティブデザイン
静岡文化芸術大学デザイン学部教授。東京大学工学部計数工学科卒業後、NECコンピュータ&コミュニケーション研究所、同ヒューマンメディア研究所等を経て、現職。メディア技術が拓く、新しいインタラクティブ(装置等の使い方、使い勝手)や新しいアート表現を追究している。主なメディアアート作品に、「Digital Fukuwarai」、「Micro Friendship」等があり、米国のSIGGRAPHやオーストリアのArs Electronica等で発表している。静岡科学館る・く・みの展示物「デジタルふくわらい」「ダンス・ダンス」も手がけている。

7月31日(日) 15:00～16:30

国芳の魅力に迫る!



概要

静岡市美術館で開催中の「没後150年 歌川国芳展」監修者として、史上最大規模の国芳展を実現した岩切友里子氏をゲストに迎えます。氏の国芳とのつきあい、浮世絵とのつきあいは、かれこれ何十年??。あたかも江戸時代に生きていたかのように、国芳を語る岩切氏。丹念な浮世絵作品の調査を繰り返し、江戸時代の文献を博捜し、堅実な考証をして研究をつまかさねてきた岩切氏のお話を伺いながら、国芳の作品の魅力を読み解いてみたいと思います。

私たちが江戸の人の気持ち、国芳の気持ちになって、絵をみてみましょう。

プロフィール

岩切友里子

東京藝術大学美術学部芸術学科卒。元リッカー美術館(浮世絵専門美術館)学芸員、元平木浮世絵美術館研究員。現在、国際浮世絵学会編集委員。

退職後、フリーランスの浮世絵研究者・学芸員として、2003年町田市立国際版画美術館の「大武者絵展」の監修、2005年東京国立博物館「北斎展」、2008年「ボストン浮世絵美術館・浮世絵名品展」の編集などに携わる。歌川国芳を主要な研究テーマとし、1996-97年に開催された「生誕200年記念 歌川国芳展」の企画を分担担当する。2008年に富山県内の旧家で発見された色板を含む368枚の版木(現在、国立歴史民俗博物館蔵)を歌川国芳、三代歌川豊国、歌川広重の版木と確認、錦絵作品を特定した。2009年、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで開催されたKUNIYOSHI展にも助力し、Kuniyoshi's Imagination Symposiumに参加。

著書『国芳妖怪百景』(共著・国書刊行会)、芳年画『月百姿』(東京堂出版)など
論考「梅屋と国芳」、「歌川国芳・本朝水滸伝豪傑(剛勇)八百人一個について」など

8月28日(日) 15:00～16:30

新しい音楽の創造とエレクトロニクス



概要

エレクトロニクスの進化は、芸術においても、美術のみならず音楽の創造にも大きな影響を与えています。現代美術の世界的牙城パリ・ポンピドゥー・センターに、1970年に組織されたIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)は、音楽芸術とエレクトロニクスを結ぶパイオニアであり、いまなおその領域をリードし続けています。日本を代表する作曲家で静岡音楽館Aoi芸術監督の野平一郎は、IRCAMで電子音響音楽やコンピュータ音楽を学び、また創作もしてきましたが、彼の作品や、この秋に初来日するアンサンブル・イティネレールの活動などもまじえながら、現代の音楽とエレクトロニクスのかかわりについて考えます。

プロフィール

野平一郎

作曲家、ピアニスト、静岡音楽館Aoi芸術監督

東京藝術大学卒、同大学院修了後、パリ国立高等音楽院に学ぶ。卒業後も、各講習会やアンサンブル・イティネレー、IRCAMにおいて、電子音響音楽やコンピュータ音楽を学ぶ。ピアニストとして、内外の主要オーケストラにソリストとして数多くの初演に携わる一方、伴奏、室内楽奏者としても活躍。作曲家としては、4曲のフランス文化庁委嘱作品をはじめ数多くの委嘱作品があり、著名なアンサンブルやソリストたちにより演奏、放送され、主要作品はアンリ・ルモワヌ社(パリ)より出版されている。その多彩な活動により各方面から多大な評価を受けている。第55回芸術選奨文部科学大臣賞(2005年)ほか受賞。2005年より静岡音楽館Aoi芸術監督。2010年より東京藝術大学教授。